

日々の田高（音楽2の授業を紹介します）

今回は、音楽Ⅱの授業の一コマです。授業内容は、コード（和音）と身近な曲のつながりについて考えながらの鑑賞です。

私は、素人なので、説明がうまくないのですが、3つの音の和音（コード）は、一番下の根音から3度ずつ上がる3つの音が重なってできる和音（例えばド・ミ・ソ）で、根音と次の音（三音）の間（ドとミ）や三音と一番上の音（五音）の間（ミとソ）距離が長いが短いか見ます。「ド・ド#・レ・レ#・ミ」は半音が4段階で長。「ミ・ファ・ファ#・ソ」は半音が3段階で短となります。この長・短の組み合わせで、表現される音色が変わります。

根音がドつまりCから始まるコードは、長と短の順列（順番も関係する）なので2×2の、4種類できます。

下から「長-短」は、メジャー、下から「短-長」は、マイナーと呼ばれるという説明の後、先生の演奏を聴き、どのような印象をもつか、自分で言語化し、周囲と共有し、発表します。

次に、長-長の組み合わせであるオーギュメント（Aug）のコードに注目します。先生の説明では、このAugのコードは、あまり使われないそうです。先生の演奏を聴いた後で、この響きをどう感じるか、生徒たちに投げかけられます。ちなみに正解はありません。

生徒からは、「魔法」「次の展開にわくわくさせる」「特別な感じ」など感じた印象の発表がありました。

さらに、このコードが使われている曲の紹介があり、なぜこのコードが多用されるのか、曲の元になる物語の場面を想像して、考えようと投げかけられました。

例えば、「ハッピーバースデーユー」の曲にもAugコードが使われていますが、その部分に焦点を当て、メジャーコードの場合とAugコードの場合を比較して、なぜこのコードが使われるのか考えました。

「この曲いいね。」という感想から、なぜAugや短-短の組み合わせのdim（ディミニッシュ）が使われているのか考えて、曲のタイトルや元のストーリーを思い浮かべながら鑑賞すると、より深く曲を知ることができるとの説明がありました。

一方、一つ一つの曲がとてもよくできていること、元となるストーリーを踏まえて、聴く人の心を動かし、作曲者も想いが伝えられるように、作り込まれていることを生徒たちは、感じたようでした。

